

平成24年度野幌森林再生活動連絡会



今年度の野幌森林再生活動連絡会は、2月13日に江別市野幌公民館にて開催しました。出席者は野幌森林再生の団体型森林づくりで活動している11団体やオブザーバーとして空知総合振興局及び開拓記念館が参加し、主催側として北海道森林管理局指導普及課、石狩森林管理署と事務局の石狩地域森林環境保全ふれあいセンターの計29名で熱心な論議や意見が交わされました。

1. 各団体の活動状況

事務局より平成24年度の各団体の活動状況、実績を報告しました。初回協定から通算8年間での植栽本数（補植含む）は平成24年度末で約1.7万本となっていますが、野ネズミ・野ウサギのほか、水はげが悪く枯れたものもあると報告しています。



2. 連絡・留意事項

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターから

平成23年度に各団体の森林再生活動地の生育状況を見させていただきました。当初から見るとササ等が相当回復してきており高さは平均で約1.6m、生育の遅い針葉樹は周りのササ等より低い所もありました。各団体の植栽活動地の生育状況を判断していただき協定の継続の検討をお願いしました。

石狩森林管理署から

協定の継続について、平成25年3月31日に協定期間が終了するため、森林再生活動を継続を希望する団体は所定の手続きを、お願いしました。

3. 意見交換

○下刈りの終了の目安は？ ○下刈り以降の手入れはどのようなものがあるか？ ○補植はどのようにすれば良いのか？ ○モニタリング調査で市民参加の再生箇所と未処理区、半処理区のデータを比較検討しているものがあるのか？ ○各団体で保育等の考え方の違いがあるか？ ○植栽などしてきたが、植栽木・天然更新木とも将来の事を想像しながら大木を育てるのであれば、いまから手入れは必要 ○自分たちが植えて育てたものだから、将来どうなるのか気にかかる。

などの質問や意見がでました。担当のセンターや局・署より質問等お答えをし理解を深め100年前の原始性を感じられる森林を目指し、来年度各団体と野幌で会えることを楽しみに盛会のうちに終了しました。

自然再生に関する情報提供

光用・間瀬両講師

野幌自然環境モニタリング調査

生状況について、野幌自然環境モニタリング調査方針に基づき野幌森林の風倒被害後の森林再生に資するものとして、平成一八年度から調査を実施しています。調査は民間会社に調査を委託、実施しています。調査項目は森林・菌類・歩行性甲虫・野生生物とし再生段階の判断基準として第一段階・第二段階・第三段階に分類、各項目がどの段階なのかを把握するものです。平成二三年度の再生段階は森林相と歩行性甲虫は第二段階に入り、菌類相は第一段階のまま、動物相は野生動物相には大きな変化が見られないが、エゾシカの動向は注意が必要であるとの調査報告がありました。野幌の森林再生は着実に進んでいるとの説明でした。（再生段階は平成二三年度資料で説明）

第1段階
自然再生の減少
高林性の甲虫の減少
高林性の菌類の減少

第2段階
天然更新木の増大
高林性甲虫の増大

第3段階
自然再生の増大
高林性菌類の増大